



＜IR説明会資料＞

KOBELCO
神戸製鋼グループ

2019年度 第3四半期決算及び業績見通しについて

2020年2月6日
株式会社 神戸製鋼所
専務執行役員
河原 一明



報告事項

1. 2019年度第3四半期決算
2. 2019年度業績見通し
3. 財務戦略
4. 参考情報

1. 2019年度第3四半期決算



ECOWAY

2019年度決算 第3四半期実績

(単位：億円)

	2018年度			2019年度			差異
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	対前年 ②-①
売上高	9,582	4,901	14,483	9,444	4,443	13,888	△595
営業損益	231	151	382	74	68	143	△239
経常損益	93	178	271	14	56	71	△200
(在庫評価影響を除く)	(68)	(158)	(226)	(29)	(51)	(81)	(△145)
特別損益	363	△36	※1 327	△41	115	※2 74	△252
親会社株主に帰属する 四半期純損益	333	116	450	△62	134	72	△378

※1 子会社化関連損益（神鋼鋼線工業子会社化） 48億円
 投資有価証券売却益（神鋼不動産株式の75%を売却） 314億円
 災害による損失 △36億円

※2 投資有価証券売却益（政策保有株式の売却） 74億円



ECOWAY

第3四半期 セグメント別売上高

(単位：億円)

売 上 高	2018年度			2019年度			差異 対前年 ②-①
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	
鉄 鋼	3,595	1,994	5,589	3,652	1,802	5,455	△134
溶 接	398	221	620	431	206	637	+17
ア ル ミ ・ 銅	1,813	905	2,718	1,702	811	2,514	△204
機 械	842	373	1,216	804	368	1,173	△43
エンジニアリング	554	344	899	614	344	958	+59
建 設 機 械	2,049	921	2,971	1,978	799	2,778	△193
電 力	358	185	543	354	161	516	△27
そ の 他	222	71	293	138	75	213	△79
調 整 額	△252	△116	△369	△231	△127	△ 358	+10
合 計	9,582	4,901	14,483	9,444	4,443	13,888	△595



ECOWAY

第3四半期 セグメント別経常損益

(単位：億円)

経常損益	2018年度			2019年度			差異 対前年 ②-①
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	
鉄鋼	△17	48	31	△58	11	△46	△78
溶接	9	14	23	18	6	25	+1
アルミ・銅	16	△6	10	△83	△43	△127	△137
機械	8	5	14	23	42	65	+51
エンジニアリング	10	16	27	21	23	45	+18
建設機械	135	90	226	87	△0	87	△138
電力	△36	3	△32	16	17	34	+67
その他	8	8	17	0	6	7	△9
調整額	△42	△2	△45	△11	△9	△20	+24
合計	93	178	271	14	56	71	△200

2. 2019年度業績見通し

2019年度 業績見通し

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異	
	実績 ①	上期 実績	下期	年度 ②	上期 実績	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	19,718	9,444	10,256	19,700	9,444	9,456	18,900	△818	△800
営業損益	482	74	76	150	74	△124	△50	△532	△200
経常損益	346	14	△14	0	14	△264	△250	△596	△250
（在庫評価影響を除く）	(291)	(29)	(△34)	(△5)	(29)	(△239)	(△210)	(△501)	(△205)
特別損益	※1 143	△41	-	△41	△41	115	※2 74	△69	+115
親会社株主に帰属する 当期純損益	359	△62	12	△50	△62	△88	△150	△509	△100

※1 子会社化関連損益（神鋼鋼線工業子会社化）48億円
 投資有価証券売却益（神鋼不動産株式一部売却）314億円
 その他（減損損失、災害損失など）△220億円

※2 投資有価証券売却益（政策保有株式の売却）74億円



ECOWAY

2019年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売 上 高	2018年度	2019年度 (前回見通し)			2019年度 (今回見通し)			差異	
	実績 ①	上期 実績	下期	年度 ②	上期 実績	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
鉄 鋼	7,539	3,652	3,948	7,600	3,652	3,598	7,250	△289	△350
溶 接	839	431	419	850	431	399	830	△9	△20
アルミ・銅	3,590	1,702	1,798	3,500	1,702	1,698	3,400	△190	△100
機 械	1,714	804	936	1,740	804	876	1,680	△34	△60
エンジニアリング	1,517	614	866	1,480	614	836	1,450	△67	△30
建設機械	3,860	1,978	1,922	3,900	1,978	1,622	3,600	△260	△300
電 力	761	354	416	770	354	386	740	△21	△30
そ の 他	420	138	192	330	138	192	330	△90	-
調 整 額	△525	△231	△239	△470	△231	△149	△380	+145	+90
合 計	19,718	9,444	10,256	19,700	9,444	9,456	18,900	△818	△800



ECOWAY

2019年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2018年度	2019年度 (前回見通し)			2019年度 (今回見通し)			差異	
	実績 ①	上期 実績	下期	年度 ②	上期 実績	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
鉄 鋼	47	△58	8	△50	△58	△192	△250	△297	△200
溶 接	36	18	12	30	18	12	30	△6	-
アルミ・銅	△15	△83	△127	△210	△83	△167	△250	△235	△40
機 械	12	23	27	50	23	37	60	+48	+10
エンジニアリング	65	21	39	60	21	39	60	△5	-
建設機械	255	87	3	90	87	△17	70	△185	△20
電 力	△3	16	49	65	16	49	65	+68	-
そ の 他	23	0	30	30	0	25	25	+2	△5
調 整 額	△75	△11	△54	△65	△11	△49	△60	+15	+5
合 計	346	14	△14	0	14	△264	△250	△596	△250

配当について

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- これに基づき、当期の期末配当につきましては、今回見直した業績予想を踏まえ、誠に遺憾ながら、見送る方針を取締役会で決議いたしました。
- 配当実績：

	2016年度			2017年度			2018年度			2019年度（予想）		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (¥/株)	-	-	-	-	30	30	10	10	20	-	-	-
配当性向			-			17.2%			20.2%			

【鉄鋼】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②-①
売上高	7,539	3,652	3,948	7,600	3,652	3,598	7,250	△350
経常損益	47	△58	8	△50	△58	△192	△250	△200
(内 在庫評価影響)	(35)	(0)	(45)	(45)	(0)	(0)	(0)	(△45)

2019年度の状況

- 鋼材の販売数量は、米中貿易摩擦の影響などによる海外の自動車向けや、国内の建築、産業機械向けを中心とした需要減少により、前回を下回ると想定。損益は、販売数量の減少に加え、在庫評価影響の悪化などから、前回見通しに比べ大幅な悪化を見込む。
- 中期ローリングの重点テーマである「ものづくり力の強化」「販売価格の改善」「戦略投資案件の収益化」に継続して取り組む。



ECOWAY

【鉄鋼】生産・販売状況

	2018年度 実績				2019年度 前回 年度見通し	2019年度			
	上期	3Q	下期	年度		上期実績	3Q実績	年度見通し	
全国粗鋼(万t)	5,222	2,570	5,067	10,289	/	5,066	2,365	4-12月計	
全国在庫水準(万t)	623	571	593	--		594	579		12月末
薄板3品在庫水準(万t)	440	417	447	--		444	431		12月末
国内自動車生産台数(万台)	463	177	511	974		482	231		12月末
									4-12月計

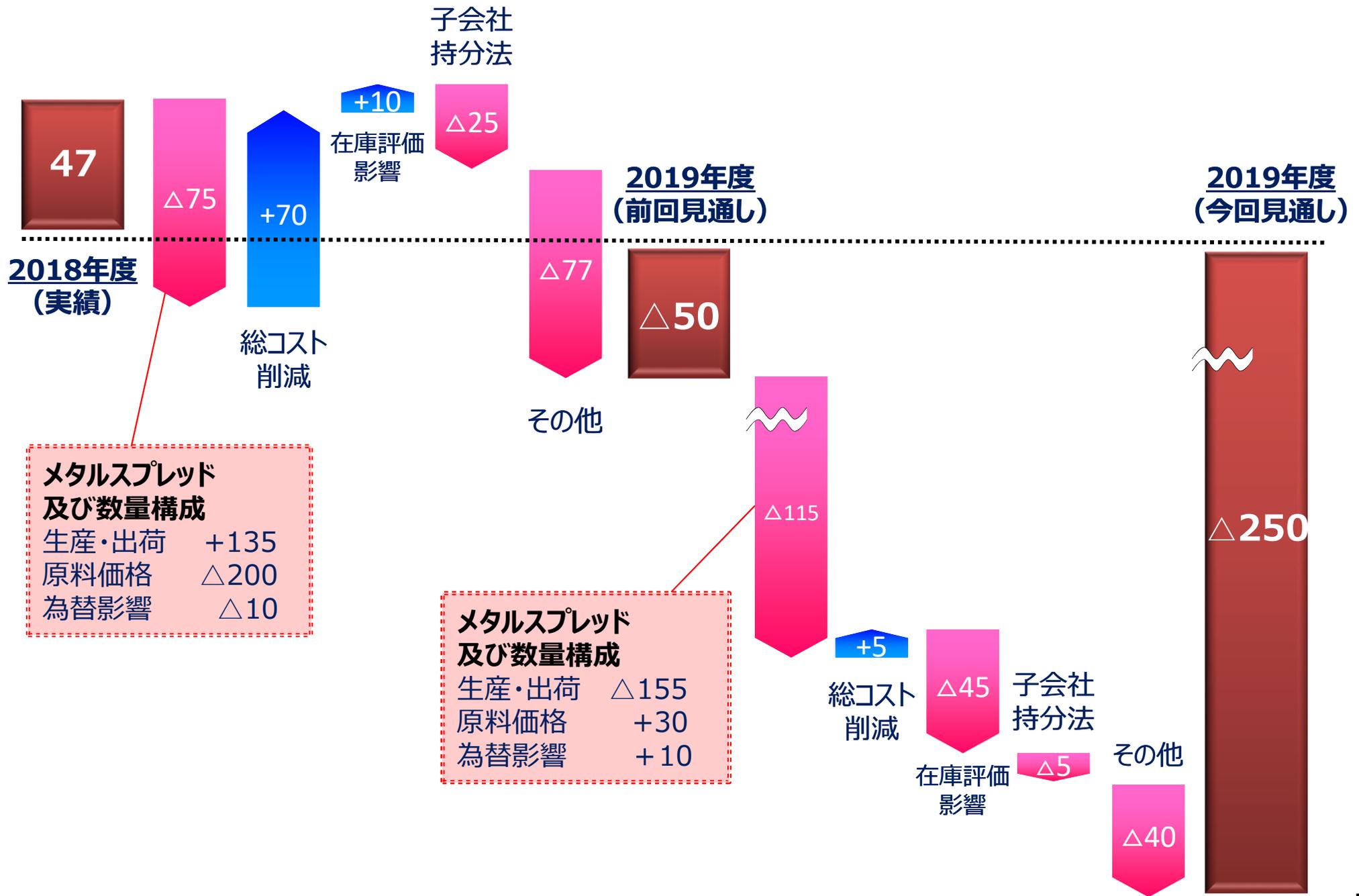
<当社>

粗鋼生産量(万t)	339	169	352	691	680程度	339	161	660程度
鋼材販売量(万t)	271	149	291	562	555程度	273	132	530程度
(内国内)	(203)	(113)	(223)	(425)	/	(200)	(103)	/
(内海外)	(68)	(36)	(69)	(137)		(73)	(29)	
鋼材販売単価(千円/t)	85.2	87.4	86.9	86.1		86.7	88.9	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.7%	25.0%	24.1%	24.9%	24%程度	25.4%	21.0%	23%程度



ECOWAY

【鉄鋼】～経常損益 増減要因～

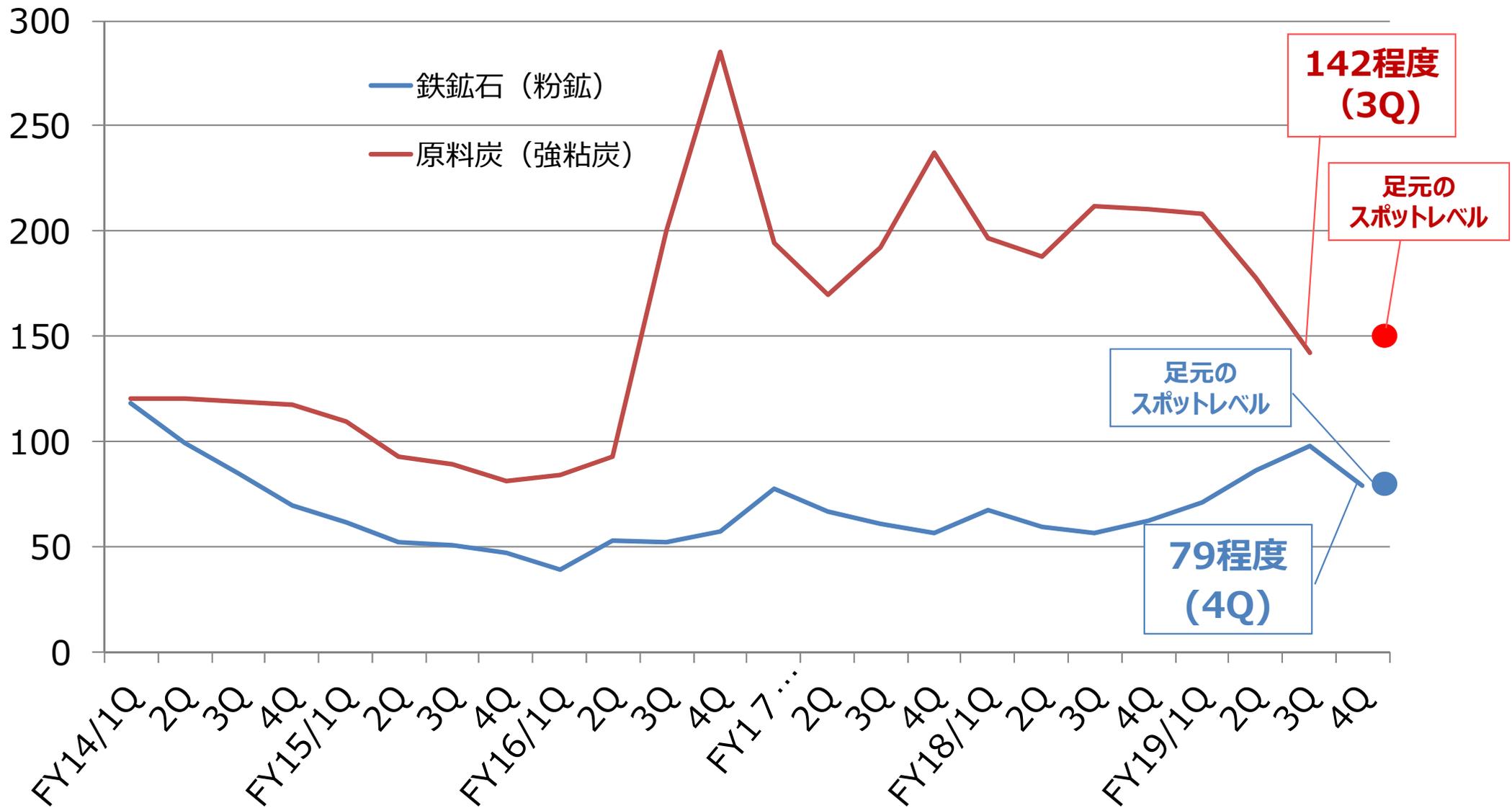




ECOWAY

【鉄鋼】鉄鉱石と原料炭 価格推移

(単位：\$/トン)

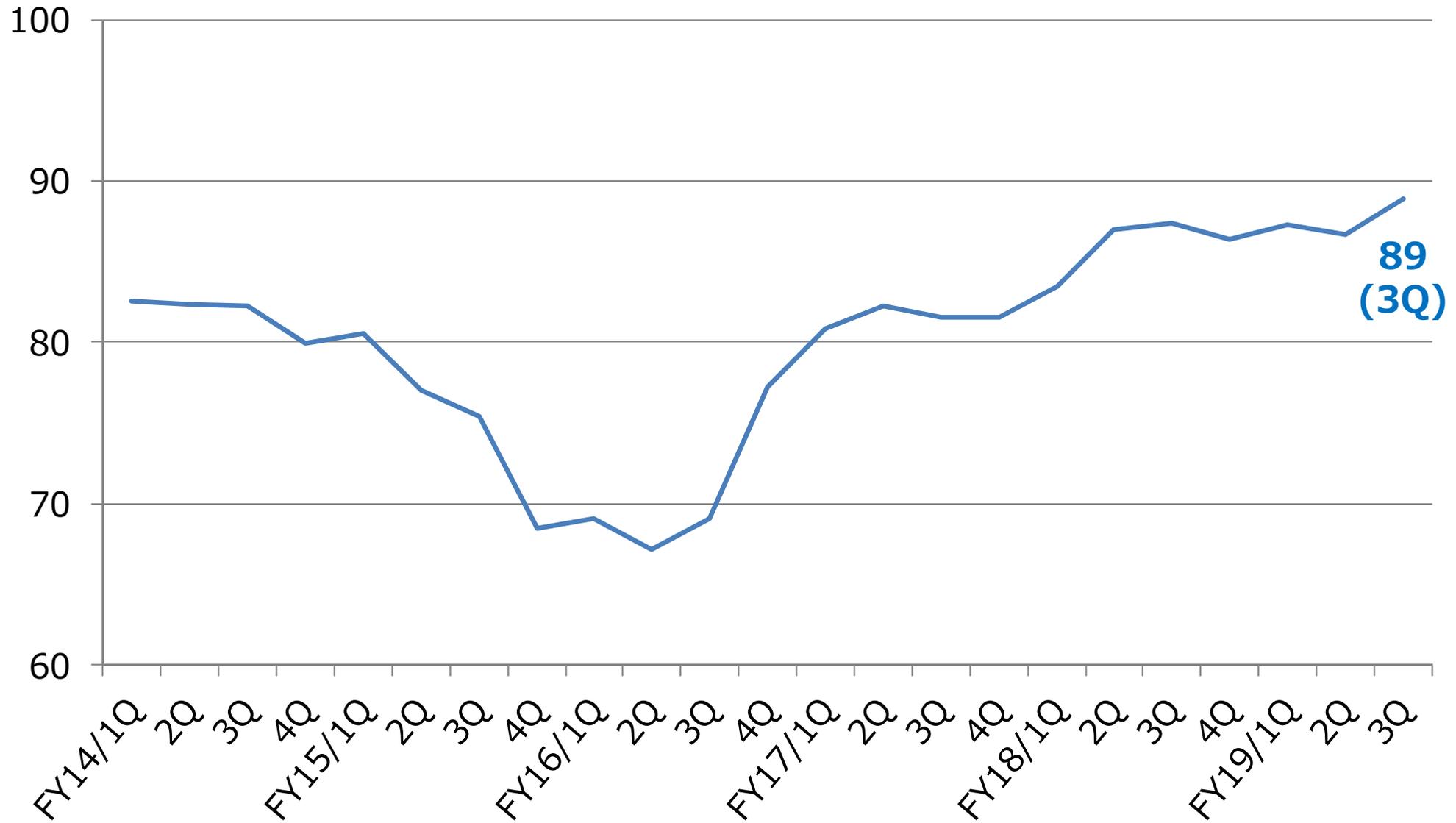




ECOWAY

【鉄鋼】鋼材単価の推移

(単位：千円/トン)



【溶接】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②-①
売上高	839	431	419	850	431	399	830	△20
経常損益	36	18	12	30	18	12	30	-

<当社の販売状況（溶接材料）>

(単位：千t)

	2018年度				2019年度	2019年度		
	上期	3Q	下期	年度	前回年度見通し	上期実績	3Q	年度見通し
国内	60	34	67	127	/	65	32	/
海外	83	45	88	171		84	40	
合計	143	78	155	298	295程度	149	72	290程度

2019年度の状況

- 溶接材料の販売数量は、建築鉄骨向けで大型案件の一巡後、前回想定ほど需要が伸びないことや、東南アジアでの需要減少が見込まれ、前回想定を下回ると想定。
- 溶接システムは人材不足を背景に、国内建築向けを中心に更新需要は堅調に推移すると見込む。
- 損益については、溶接材料の販売数量は減少するも、コストダウンや溶接システムの売上増加により、前回見通しを据え置く。

【アルミ・銅】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②-①
売上高	3,590	1,702	1,798	3,500	1,702	1,698	3,400	△100
経常損益	△15	△83	△127	△210	△83	△167	△250	△40
(内 在庫評価影響)	(20)	(△15)	(△25)	(△40)	(△15)	(△25)	(△40)	-

<当社の販売状況>

(単位：千t)

	2018年度				2019年度	2019年度			
	上期	3Q	下期	年度	前回年度見通し	上期実績	3Q	年度見通し	
アルミ圧延品	国内	140	65	134	274	275程度	138	64	270程度
	海外	35	19	35	70	65程度	30	15	65程度
銅圧延品	銅板条	29	16	30	59	53程度	26	14	53程度
	銅管	43	21	41	85	85程度	44	19	83程度

2019年度の状況

- アルミ圧延品の販売数量は、自動車向けの需要減少に加え、半導体・IT関連向けの需要回復が遅れることから前回から下回る見通し。また、数量減少による影響もあり、コスト改善活動で計画より一部未達が見込まれることから、損益は、前回見通しに比べ悪化を見込む。
- 中期ローリングの重点テーマである「ものづくり力の強化」「販売価格の改善」「戦略投資案件の収益化」に継続して取り組む。



【アルミ・銅】～経常損益 補足説明～

ECOWAY



【機械】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②－①
売上高	1,714	804	936	1,740	804	876	1,680	△60
経常損益	12	23	27	50	23	37	60	+10
受注高	1,717	805	800程度	1,600程度	805	850程度	1,650程度	+50程度

2019年度の状況

- 受注高は、海外では圧縮機を中心に厳しい競争環境が継続するものの、米中貿易摩擦を背景に中国から他国への生産移管による需要もあり、前回想定を上回る見通し。
- 損益は、案件の進捗に差があるものの、採算性の改善やアフターサービス需要が堅調に推移することなどから、前回見通しに比べ増益を見込む。

【エンジニアリング】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②－①
売上高	1,517	614	866	1,480	614	836	1,450	△30
経常損益	65	21	39	60	21	39	60	－
受注高	1,226	761	590程度	1,350程度	761	590程度	1,350程度	同程度

2019年度の状況

- 受注高は、廃棄物処理関連事業を中心に堅調な需要が継続し、前回想定並を見込む。
- 損益についても、案件の進捗に変化があるものの、前回見通し並を見込む。



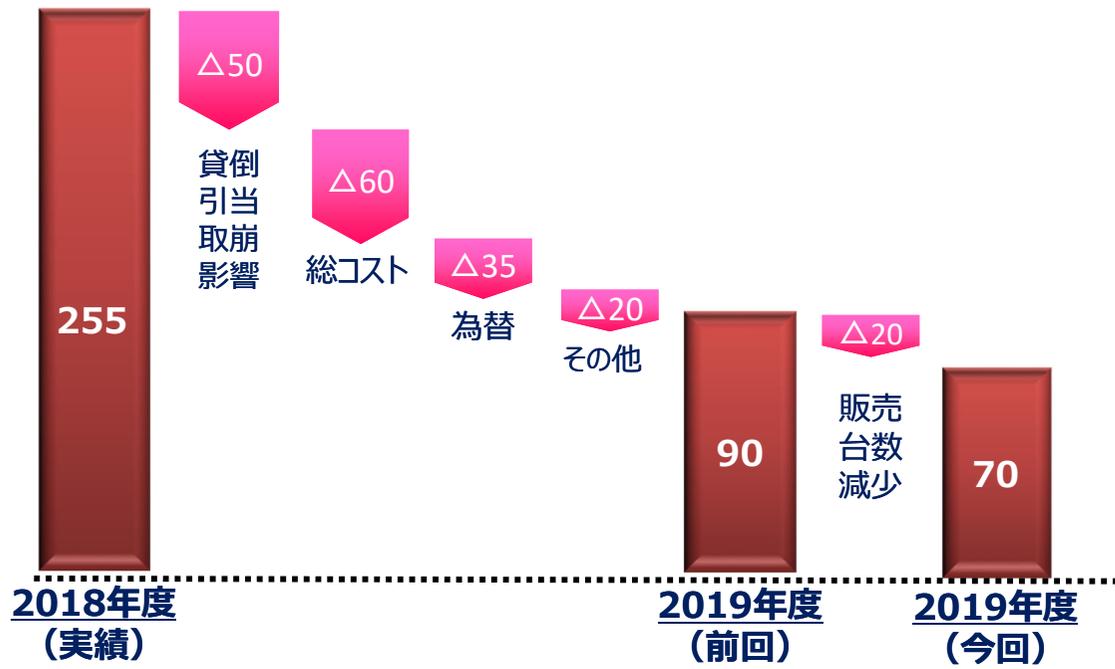
ECOWAY

【建設機械】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②-①
売上高	3,860	1,978	1,922	3,900	1,978	1,622	3,600	△300
経常損益	255	87	3	90	87	△17	70	△20

～経常損益 増減要因～



2019年度の状況

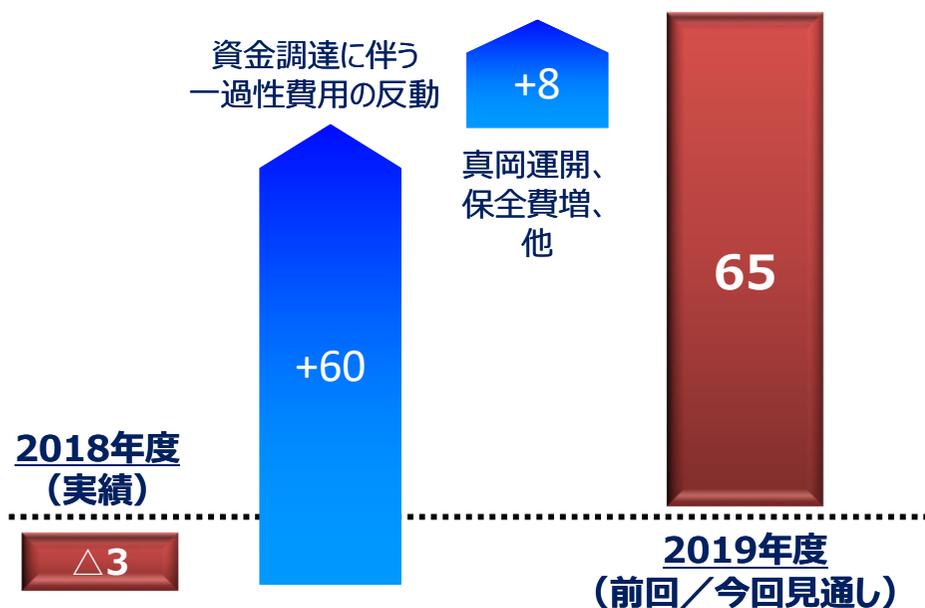
- 油圧ショベルの販売台数は、東南アジアを中心とする需要の減少により、前回想定を下回ると想定し、損益も、前回見通しに比べ減益を見込む。

【電力】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期実績	下期	年度①	上期実績	下期	年度②	対前回②-①
売上高	761	354	416	770	354	386	740	△30
経常損益	△3	16	49	65	16	49	65	-

～経常損益 増減要因～



2019年度の状況

- 燃料価格の下落により、前回想定から売上高の減少を見込むものの、経常損益については前回見通しを据え置く。
- 新規プロジェクトの真岡発電所1号機は10月より営業運転を開始。2号機は2020年前半の営業運転開始を目指し、建設中。

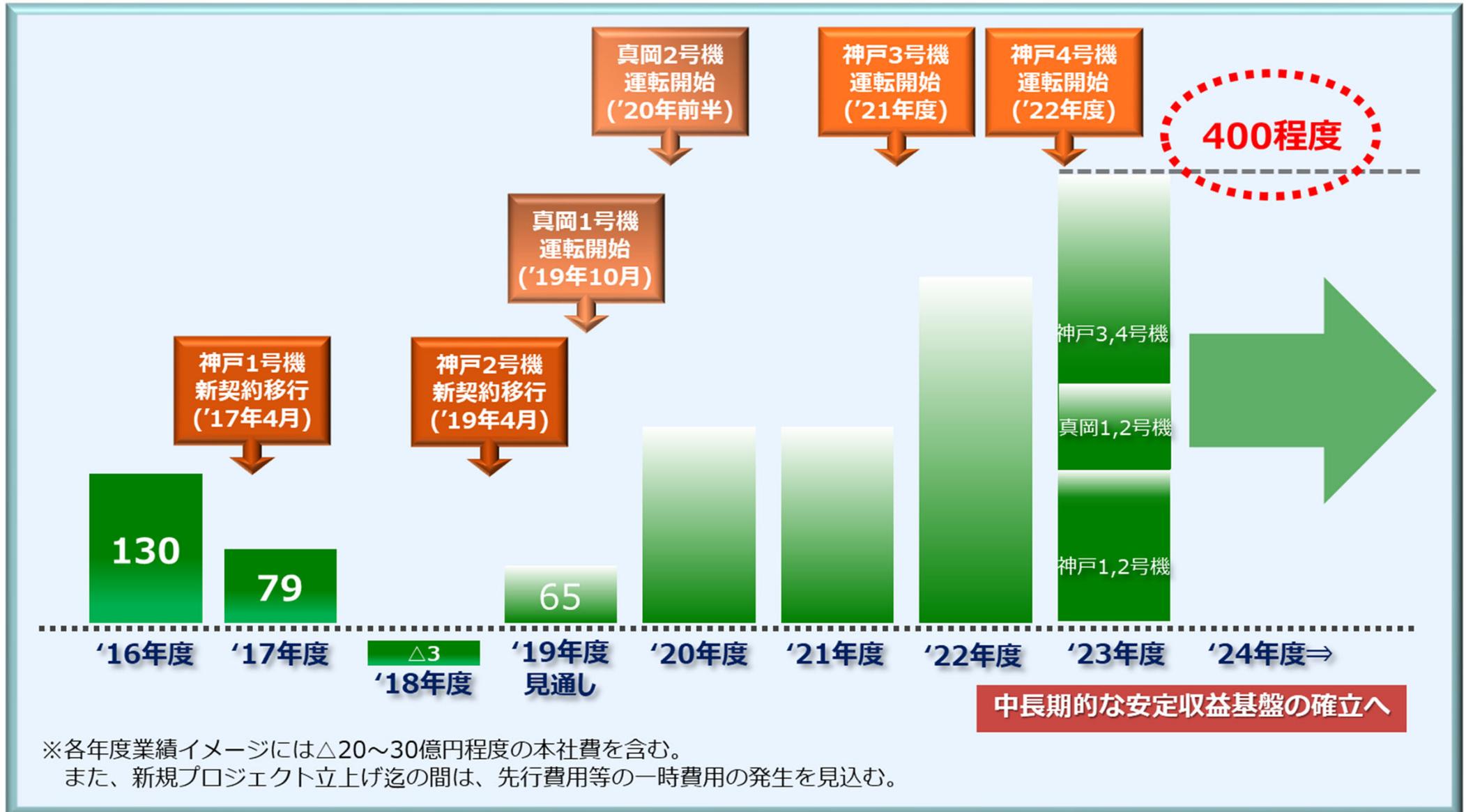
【発電所概要】

会社名	(株)コベルコパワー神戸	(株)コベルコパワー真岡	(株)コベルコパワー神戸第二
所在地	兵庫県神戸市 (神戸製鉄所内)	栃木県真岡市 (真岡製造所隣接)	兵庫県神戸市 (神戸製鉄所内)
燃料	石炭	都市ガス	石炭
発電規模	140万kW (70万kW×2基)	124.8万kW (62.4万kW×2基)	130万kW (65万kW×2基)
発電方式	微粉炭火力 超臨界圧発電 (SC)	ガスタービン・コンバインドサイクル 発電 (GTCC)	微粉炭火力 超々臨界圧発電 (USC)
営業運転 開始時期	1号機：2002年4月 (稼働中) 2号機：2004年4月 (稼働中)	1号機：2019年10月 (稼働中) 2号機：2020年前半 (建設中)	3号機：2021年度 (建設中) 4号機：2022年度 (建設中)



ECOWAY

電力セグメントの業績イメージ（単位：億円）



※各年度業績イメージには△20～30億円程度の本社費を含む。
また、新規プロジェクト立上げ迄の間は、先行費用等の一時費用の発生を見込む。



ECOWAY

3. 財務戦略



ECOWAY

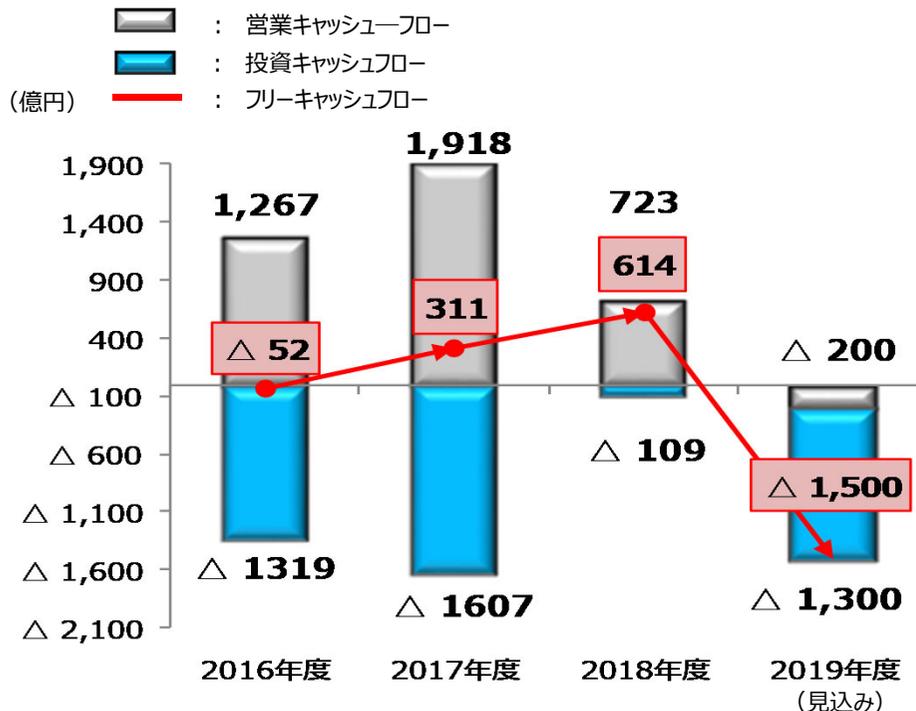
【財務戦略】

資金・資産の効率化

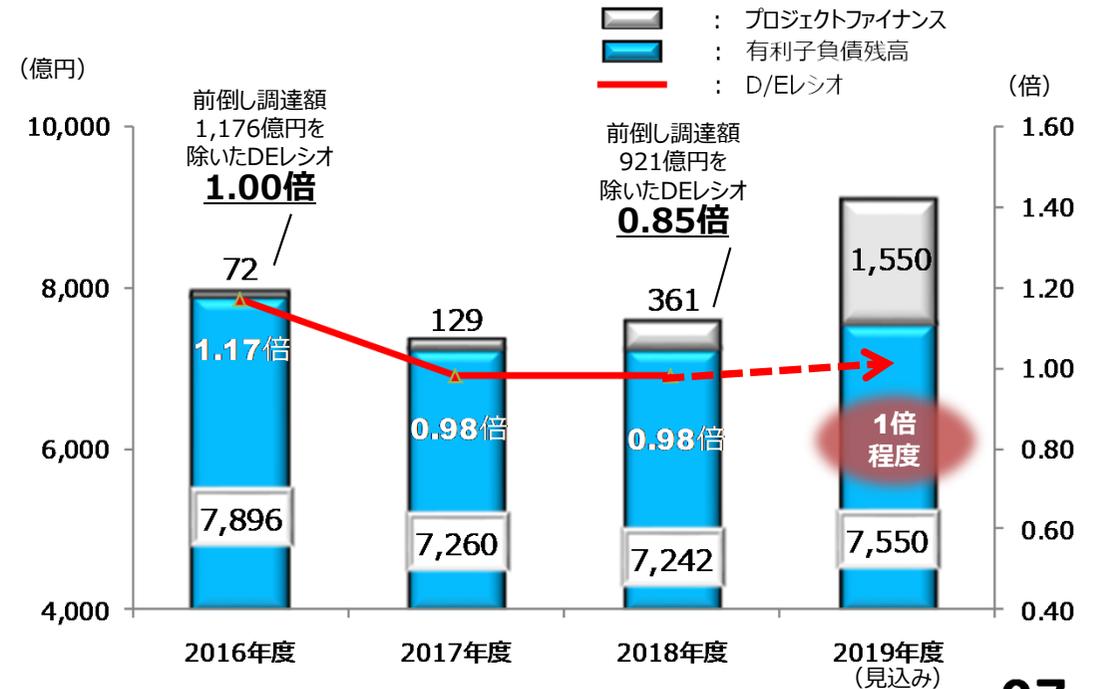
中期ローリングの19~20年度の重点テーマとして、「資本コストを意識した経営資源の効率化」を掲げた。

- 500億円をターゲットとする資金・資産の効率化は、当初計画よりも前倒して、2019年度中に実施。さらに追加施策も検討する。
 - 保有株式等の資産売却
 - 現預金の圧縮
 - 投資の厳選・運転資金改善 ほか
- D/Eレシオ 1倍以下の堅持

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/Eレシオ》





ECOWAY

4. 参考情報

【フリーキャッシュフロー】

(単位：億円)

	2018年度	2019年度 (前回見通し)	2019年度 (今回見通し)	差異
	実績	年度 ①	年度 ②	対前回 ②-①
営業キャッシュフロー	723	100	△200	△300
投資キャッシュフロー	△109	△1,400	△1,300	+100
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	614	△1,300	△1,500	△200
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	385	△2,400	△2,650	△250
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	1,926	700	650	△50

【設備投資の状況】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 見通し
設備投資<計上>	1,602	1,286	1,334	2,750
対減価償却費	167%	126%	130%	262%
設備投資<支払い>	1,389	1,366	1,324	2,700
対減価償却費	144%	134%	129%	257%
減価償却費	962	1,020	1,025	1,050

【財務指標】

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 見通し
ROS ※1	△1.1%	3.8%	1.8%	△1.3%
1株当たり当期純利益	△63.54円	174.43円	99.20円	△41.36円
有利子負債 ※2	7,896億円	7,260億円	7,242億円	7,550億円
D / E レシオ ※3	※4 1.17倍	0.98倍	※5 0.98倍	1倍程度
ROA ※6	△0.8%	3.1%	1.5%	△1.0%
ROE ※7	△3.4%	8.9%	4.8%	△2.1%

※1：売上高経常利益率

※2：有利子負債は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※4：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む
前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※5：2019年度分借入金の前倒し調達（921億円）含む
前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

鉄鋼 差異内訳（2018年度3Q累計 ⇒ 2019年度3Q累計）

（単位：億円）

	2018年度			2019年度		
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計
経常損益	△17	48	31	△58	11	△46


 △78

増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	45	原料価格	△	130
総コスト削減	+	80	在庫評価影響※	△	20
連結子会社・持分法	+	15	為替影響	△	5
			その他	△	63
合計	+	140	合計	△	218

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

鉄鋼 差異内訳 (2018年度 ⇒ 2019年度)

(単位：億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△17	64	47	△58	△192	△250



増益要因		減益要因	
総コスト削減	+ 75	生産・出荷	△ 20
		原料価格	△ 170
		在庫評価影響※	△ 35
		連結子会社・持分法	△ 20
		その他	△ 127
合計	+ 75	合計	△ 372

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

鉄鋼 差異内訳（2019年度 前回見通し ⇒ 今回見通し）

(単位：億円)

	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△58	8	△50	△58	△192	△250



増益要因			減益要因		
原料価格	+	30	生産・出荷	△	155
総コスト削減	+	5	在庫評価影響※	△	45
為替影響	+	10	連結子会社・持分法	△	5
			その他	△	40
合計	+	45	合計	△	245

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

鉄鋼 差異内訳 (2019年度 上期 ⇒ 下期)

(単位：億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△17	64	47	△58	△192	△250



 △134

増益要因			減益要因		
原料価格 為替影響	+	10 15	生産・出荷 総コスト 連結子会社・持分法 その他	△	35 15 40 69
合計	+	25	合計	△	159

アルミ・銅 差異内訳 (2018年度 ⇒ 2019年度)

(単位：億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	16	△32	△15	△83	△167	△250



増益要因	減益要因
	生産・出荷 △ 45
	総コスト △ 60
	在庫評価影響 ※ △ 60
	その他 △ 70
合計	合計 △ 235

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

アルミ・銅 差異内訳（2019年度 前回見通し ⇒ 今回見通し）

(単位：億円)

	2019年度（前回見通し）			2019年度（今回見通し）		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△83	△127	△ 210	△83	△167	△ 250

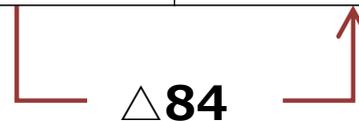


増益要因	減益要因
	生産・出荷 △ 10
	総コスト △ 10
	その他 △ 20
合計	合計 △ 40

アルミ・銅 差異内訳 (2019年度 上期 ⇒ 下期)

(単位：億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	16	△32	△15	△83	△167	△250



増益要因		減益要因			
生産・出荷	+	20	総コスト	△	20
			在庫評価影響※	△	10
			その他	△	74
合計	+	20	合計	△	104

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【3本柱の事業成長戦略】2016-2020年度 中期計画の進捗状況

素材

I 輸送機軽量化への取組み
 自動車軽量化戦略概要（2017年5月説明会資料をご参照下さい）
https://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2017/files/170526.pdf

II 鉄鋼事業の収益力強化
 加古川製鉄所への上工程設備集約を完了、追加収益改善策を順調に実行中

機械

I エネルギー・インフラ分野への取組み
 機械事業拡大に向けた取組みを推進中

II 建設機械事業の収益力強化
 中国ショベル事業再構築を完了
<https://www.kobelcocm-global.com/jp/news/2018/180625.html>

電力

電力供給事業の安定収益化への取組み
 新規プロジェクト 順調に進捗
 既存・新規 プロジェクト概要（2017年1月説明会資料をご参照下さい）
https://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2016/files/170111.pdf

中期経営計画ローリング

2019～ 2020年度 の重点テーマ

① 素材系を中心とした収益力強化
 ② 経営資源の効率化と経営基盤の強化
https://www.kobelco.co.jp/releases/1201245_15541.html

品質不適切行為に関わる進捗

真岡製造所におけるJIS認証の一時停止解除

- 当社真岡製造所は、2017年12月8日に「JIS認証の一時停止」の通知をJIS認証機関より受けたが、品質管理体制の再構築に向けた取り組みなどから、「JIS認証の一時停止解除」に至る。

(株)コベルコ マテリアル銅管におけるJIS認証取得 (2020年1月28日公表)

- 当社子会社の(株)コベルコ マテリアル銅管は、2017年10月26日にJIS認証機関より「JIS H3300 銅及び銅合金の継目無管」について「JIS認証の取り消し」の通知を受けたが、品質管理体制の再構築に取り組み、「JIS H3300 銅及び銅合金の継目無管」のJIS認証を取得した。

品質不適切行為に関わる進捗

米国司法当局からの書類提出要求等の終了

- 当社の米国子会社であるKobe Steel USA, Inc.が、2017年10月16日（現地時間）に米国司法当局から、書類提出要求を受領。趣旨は、当社グループが米国顧客に対して販売した製品の仕様不適合に関する情報の提供。当社グループは、関連文書の保存や提出など、米国司法当局の調査に協力。
- 2019年7月17日、米国司法当局から、本件の調査に関して、追加の確認事項はなく、今後は当社グループからの報告も不要であり、上記書類提出要求に関連した関連文書の提出および保存も不要である旨を通知される。当社としては、品質不適切行為に関する米国司法当局の調査は終了したものと理解、今後、当該調査に基づく処分等の手続に進むことはない判断。

当社及び当社グループ会社に対する訴訟の進展

- カナダ自動車ユーザー等クラスアクション：当社グループの不適合製品が組み込まれた自動車のユーザー等と主張する者による、自動車価値下落、正規品と不適合製品の差額の騙取等の損害の賠償請求。2019年11月、当社が約1.6億円（1.95百万カナダドル）を支払うことで和解の最終合意書を締結。
- 米国自動車ユーザー等クラスアクション：当社グループの不適合製品が組み込まれた自動車のユーザー等と主張する者による、自動車価値下落、正規品と不適合製品の差額の騙取等の損害の賠償請求。2019年7月18日（現地時間）、本件訴訟を却下する旨の2回目の判決が下ったが、2019年8月8日（現地時間）、原告より3回目の訴状が提出された。3回目の訴状では、原告が訴訟原因を改め、当社グループの不当利得の返還を求めており、当社グループも3回目の訴訟却下を申立てた。9月の裁判所審理の結果、10月に訴訟の却下申立てを棄却するとの判断を裁判所が下し、本件訴訟は継続となった。なお、9月の裁判所審理の際、裁判官は原告主張の不当利得返還請求につき、その成立可能性に対し懐疑的な見解を示している。

【素材】 輸送機軽量化への取組み

	案件	地域		時期
自動車	自動車用冷延ハイテン製造・販売会社 (鞍鋼神鋼冷延高張力自動車鋼板有限公司)	中国	中国での環境対応への取組み強化 日・米・欧・中での「薄板ハイテンのグローバル供給体制」整備	2016年2月 稼働開始
	自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社 (神鋼汽車鋁材(天津)有限公司)	中国	日系アルミ圧延メーカー初の中国におけるパネル材生産拠点	2016年4月 稼働開始
	自動車向けアルミ押出材製造・販売会社 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国での燃費規制への対応強化 日・米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制確立	2016年8月 建設開始 2017年12月 量産開始
	高生産性ホットスタンプ用鋼板の量産	-	プレスの生産性に優れたホットスタンプ用冷延鋼板を開発、トヨタ自動車(株)プリウス向けのボディ骨格部品を受注、量産。	2016年 量産開始
	自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強 (Kobe Aluminum Automotive Products, LLC)	米国	北米のアルミ鍛造サスペンションの更なる需要拡大に対応 日系自動車メーカーのみならず、米国自動車メーカー車種の採用拡大を見込む	2019年1月 増強完了
	Novelisとの韓国でのアルミ合併会社の設立 (Ulsan Aluminum Ltd.)	韓国	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 アジアにおける母材の安定的な生産・供給能力を確保	2017年9月 設立
	真岡製造所におけるアルミパネル材製造設備の増強	日本	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 高品質のアルミパネル材を安定的に供給する体制を構築	2017年度中 建設着工 2020年1月 稼働開始予定
	北米における自動車用溶融亜鉛めっき超ハイテン生産設備の増設 (PRO-TEC Coating Company, LLC)	米国	北米における自動車用ハイテン鋼板の需要拡大に対応 溶融亜鉛めっきでも高加工性超ハイテンの生産が北米で可能に	2019年7月 稼働開始
	加古川製鉄所における自動車用ハイテン鋼板の生産設備投資	日本	今後の自動車用超ハイテン鋼板の需要拡大、高強度化、高加工性ニーズに対応 日米での高加工性超ハイテン鋼板の同時生産を実現	2021年2月 稼働開始予定
	異種金属接合用ロボットシステムの共同開発	-	神戸製鋼が考案した、超ハイテン鋼板とアルミを接合できる異種金属接合法「エレメントアークスポット溶接法(EASW)」と、ファナック(株)の持つロボット、エンジニアリング、およびセンサー技術を活用したロボットシステムを開発、実用化を目指す。	
	自動車向けアルミ押出材製造設備の増強 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国における燃費規制強化とアルミ押出・加工品の需要に対応	2018年8月 建設着工 2020年3月 量産開始予定
	中国における線材二次加工拠点の能力増強	中国	今後も拡大が見込まれる高品質な特殊鋼線材のニーズに応えるため、5期目の能力増強を実施	2020年3月 伸線機稼働開始予定 2020年6月 熱処理炉稼働開始予定
自動車足回り向けスラグ低減溶接プロセスの開発	日本	当社とマツダ(株)が、発錆の起点となるスラグを低減し、足回り部品の防錆性能を高めた「自動車足回り向けスラグ低減溶接プロセス」を開発。マツダ(株)「MAZDA3」に初めてされ、今後他の車種にも展開される予定。	2019年6月 日本溶接協会賞技術賞受賞	



ECOWAY

【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
圧縮機	新型オイルフリー式汎用空気圧縮機の販売開始	-	世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現	2016年10月 販売開始
	米国向け水素ステーション用All in oneコンパクトパッケージ「HyAC mini-A」の開発・販売開始	米国	米国の定置式水素ステーション向けに高圧水素圧縮機、冷凍機、蓄圧器、ディスプレイをセットにした「HyAC mini-A」の販売を開始。海外水素ステーション向けに水素圧縮機等を販売するのは日本企業では初。	2017年2月 販売開始
	非汎用圧縮機用 大型試運転設備の完成	日本	世界最大級となる40MW可変速モータを使用した試運転が可能となり、大型ターボ圧縮機市場への参入条件が整う。特に、当社優位性のあるアジア市場への取り込みに注力。	2017年4月 設備完成
	非汎用圧縮機事業 フィリピン新会社設立 (Kobelco Machinery Philippines Inc.)	フィリピン	指導員派遣機能とエンジニアリング機能を統合した新会社を設立。非圧縮機事業のグローバル展開を加速させるとともに、「SVの増強」と「エンジニアリング業務の最大効率化」を図る。	2017年2月 設立 2017年4月 営業開始
産業機械	等方圧加圧装置世界トップメーカーQuintus Technologies ABの買収	スウェーデン	航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能製品に幅広く適用される等方圧加圧装置（IP装置）のトップメーカーであるQuintus社を買収。産業機械事業の高収益化に向け、IP装置メニューを強化。	2017年4月 買収
建設機械	五日市工場における建設機械生産能力の増強	日本	高まるグローバル市場の需要に対応するため、マザー工場であり、幅広い生産メニューを持つ五日市工場の全面的な生産能力を増強する。	2020年3月 増強完了予定
エンジニアリング	MIDREX直接還元鉄プラントの新規受注	アルジェリア	世界最大クラスとなる年産能力250万トン 同国産業の発展に貢献	2016年6月 受注 2018年11月 生産開始
	英国における廃棄物処理プラント案件の基本設計、主要機器供給業務等を受注	英国	都市ごみ等廃棄物処理発電プラント案件の基本設計、主要機器（ガス化炉・熔融炉・ボイラ等）供給、および、据付・試運転指導員の派遣業務を受注。海外4件目、英国では初めての受注。	2018年11月 受注
	東京都八王子市から「（仮称）新館清掃施設整備及び運営事業」を受注	日本	大幅に性能を向上させた次世代型の流動床式ガス化燃焼炉を採用。施設のコンパクト化や、発電量の最大化、発電の安定化、環境負荷の低減に貢献。	2018年12月 受注 2018年～2022年 設計・建設 2022年～2043年 運営業務
	水素を活用した直接還元製鉄法に関する共同開発契約をアルセロール・ミッタル社と締結	ドイツ	水素のみを還元剤とする直接還元鉄の実証プラントの設計を実施。天然ガスの代わりに水素を使用することで、CO2は生成されず、副産物として水だけが発生する。	2019年9月 契約締結

【電力】 安定収益化への取組み

(株)コベルコパワー真岡が真岡発電所1号機の営業運転を開始 (2019年10月1日公表)





ECOWAY

企業理念

【KOBELCOの3つの約束】

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

【KOBELCOの6つの誓い】

1. 高い倫理観とプロ意識の徹底
2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献

「品質憲章」

KOBELCOグループは、製品、サービスにおいて「信頼される品質」を提供するために法令、公的規格ならびにお客様と取り決めた仕様を遵守し、品質向上に向けてたゆまぬ努力を続けてまいります。

3. 働きやすい職場環境の実現
4. 地域社会との共生
5. 環境への貢献
6. ステークホルダーの尊重

将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化